

佳作

「うけいれること」

へっぴりっおおひらやまししょうがつこういちねん
別府市立大平山小学校一年 東里 歩
とうり あゆむ

ぼくは、みずがこわいです。だからプールがしょうがっこう小学校であるときいたとき、ぼくは、こわいと思おもいました。おかあさんからいえで、かおつけのれんしゅうからしてみたらと、いわれたときぼくはないていやがりました。いやなことをやりなさいと、なんどもいわれると、こころがくるしくなることをまなびました。

プールの日は、ふあんなきもちと、こわいというきもちのままプールにはいりました。プールにはいることは、なんとかできたので、ほつとしたのをおぼえています。

ぼくみたいに、みんな、いやだな、にがてだな、と、おもっていることがあるのかな、と、かんがえました。ぼくのおとうさんも、みずがこわいそうです。ぼくのいもうとは、こわいはなしがいやだそうです。にがてなものをからかわれたりするのは、みんないやだとおもいます。それをがんばるのはいいことだけれど、みんなにがてなことがあるというのを、うけいれるようにしたらいいとおもいました。

もし、ぼくのにがてなものがまわりの人ひとにうけいれられるとしたら、ぼくはうれしいです。だから、ぼくは、まわりの人ひとのにがてなこと、いやなこともうけいれていこうとおもいます。